

## 抗インフルエンザ薬の特徴と使い分け

インフルエンザは主に例年11～12月頃から流行が始まり、1～3月にピークを迎えます。

2018年3月に新しいインフルエンザ薬としてパロキサビル マルボキシル（ゾフルーザ<sup>®</sup>）が発売されました。パロキサビル マルボキシルは、これまでに発売された4剤のノイラミニダーゼ阻害薬とは作用機序の異なるRNAポリメラーゼ阻害薬で、ウイルスの増殖を抑制する薬剤です。また単回経口投与で治療が完結するため、臨床上有用な薬剤と考えられる一方で、高率にウイルスのアミノ酸変異を惹起することが知られており、臨床効果への影響、周囲への感染性については、今後の検討が必要です。

現在、日本で使用可能な抗インフルエンザ薬の特徴を表にまとめました。

服薬指導のポイントとして、吸入薬のザナミビル（リレンザ<sup>®</sup>）は正しく吸入しないと薬効に影響を与えるので、患者や家族に操作方法をしっかりと理解してもらう必要があります。内服薬のオセルタミビル（タミフル<sup>®</sup>）は、内服コンプライアンスが重要ですが、吐き気がある患者には使用できません。また、腎機能が悪い場合は減量するので患者に説明が必要です。ペラミビル（ラピアクタ<sup>®</sup>）は注射薬であることから、吐き気がある患者や内服できない患者、吸入が困難な患者に使用できます。合併症等により重症化する恐れがある患者には症状に応じて連日反復投与できます。吸入薬のラニナミビル（イナビル<sup>®</sup>）は、1回の吸入で治療が完結するので服用忘れや自己中断による服用中止の心配はいりませんが、正しく吸入するために医療従事者の見守り下での吸入が望ましいです。抗インフルエンザ薬として5剤目のパロキサビル マルボキシル（ゾフルーザ<sup>®</sup>）は、1回投与であるため利便性が高く飲み忘れの心配はいりませんが、内服薬であるため吐き気がある患者には使用できません。

抗インフルエンザ薬を使用している患者に共通することとして、症状が軽くなっても処方された薬は確実に使用するように服薬意義を十分に理解させることが重要です。

参考資料：各社添付文書、日本感染症学会ホームページ  
月刊薬事2018 Vol70 No10

（鹿児島市医師会病院薬剤部 中木原由佳）

抗インフルエンザ薬の一覧表

一般名	ザナミビル	オセルタミビル	ペラミビル	ラニナミビル	バロキサビル マルボキシシル
商品名	リレンザ <sup>®</sup> 5mg	タミフル <sup>®</sup> カプセル 75mg, タミフル <sup>®</sup> ド ライシロップ3%	ラピアクタ <sup>®</sup> 点滴静 注液バイアル150mg, ラピアクタ <sup>®</sup> 点滴静 注液バッグ300mg	イナビル <sup>®</sup> 吸入粉末 剤20mg	ゾフルーザ <sup>®</sup> 錠10mg /20mg
販売開始	2000年12月	カプセル: 2001年2月 ドライシロップ: 2002年7月	2010年1月	2010年10月	2018年3月
剤形	吸入剤	経口剤	注射剤	吸入剤	経口剤
効能効果	A型又はB型インフル エンザウイルス感染症 の治療及びその予防	A型又はB型インフル エンザウイルス感 染症及びその予防	A型又はB型インフル エンザウイルス感 染症	A型又はB型インフル エンザウイルス感染症 の治療及びその予防	A型又はB型インフル エンザウイルス感 染症
治療の 用法・用量	成人及び小児: 1回 10mg, 1日2回, 5日間	成人及び体重37.5kg 以上の小児: 1回75 mg, 1日2回, 5日間 体重37.5kg未満の幼 小児: 1回2mg/kg, 1日2回, 5日間 新生児, 乳児: 1回 3mg/kg, 1日2回, 5日間	成人: 1回300mgを 15分以上かけて単回 点滴静注する。 合併症等により重症 化するおそれのある 患者には1日1回600 mgを15分以上かけ て単回点滴静注する が, 症状に応じて連 日反復投与できる。 小児: 1日1回10mg/ kgを15分以上かけて 単回点滴静注するが, 症状に応じて連日反 復投与できる。投与 量の上限は, 1回量 として600mgまでと する。	成人及び10歳以上の 小児: 1回40mg, 1日 1回, 単回投与 10歳未満の小児: 1 回20mg, 1日1回, 単 回投与	成人及び12歳以上の 小児: 1回40mg, 1日 1回, 単回投与 体重80kg以上の患者: 1回80mg, 1日1回, 単回投与 12歳未満の小児: 40 kg以上, 1回40mg, 1日1回, 単回投与 20kg以上40kg未満: 1回20mg, 1日1回, 単回投与 10kg以上20kg未満: 1回10mg, 1回1錠, 単回投与, (10kg未 満は適応外)
予防投与 の用法・ 用量	成人及び小児: 1回 10mg, 1日1回, 10 日間	成人及び小児: 1回 75mg, 1日1回, 7~ 10日間 体重37.5kg以上の小 児: 1回75mg, 1日 1回, 10日間 体重37.5kg未満の幼 小児: 1回2mg/kg, 1日1回, 5日間	なし	成人及び10歳以上の 小児: 1回40mg, 1日 1回, 単回投与, また は1回20mg, 1日1回, 2日間 10歳未満の小児: 1回20mg, 1日1回, 単回投与	なし
腎機能 障害	なし	【CCr>30】 治療: 1回75mg, 1日 2回 予防: 1回75mg, 1日 1回 【10<CCr<30】 治療: 1回75mg, 1日 1回 予防: 1回75mg, 1日 1回隔日 【CCr<10】 治療・予防: 推奨用 量は確立していない	【50 Ccr】 300mg(*600mg) 【30 Ccr<50】 100mg(*200mg) 【10 Ccr<30】 50mg(*100mg) CCr10mL/min未満及 び透析患者の場合, 慎重に投与量を調節 の上投与すること。 ペラミビルは血液透 析により速やかに血 漿中から除去される。 *重症化するおそれ のある患者の場合の 投与量	なし	なし
妊婦への 使用	治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与すること				
授乳婦へ の使用	授乳を避けさせること				
薬価	147.1円/プリスター (5mg)	272円/カプセル 200.2円/g	6,216円/バッグ 3,338円/バイアル	2139.9円/キット (20mg)	1507.5円/錠(10mg) 2394.5円/錠(20mg)

CCr: クレアチニンクリアランス (単位mL/min)